

次回までのTodo (とりまとめ役への発注)

理研AICS 富田浩文

• サイエンスロードマップ

– 学会などでの議論

- 昨年の白書での議論を中心に、学会等での議論状況、その計画を報告する。
 - 担当：池口、藤堂、堀、河宮、高木、石川

– 連携課題の抽出

- 計算科学ロードマップ報告書での3課題について
 - 手法的な連携などの内容を充実させる
- 次回までに各分野で可能性を議論して持ち込んでもらう。
 - 担当：池口、藤堂、堀、河宮、高木、石川

– 拡充すべき分野

- 材料分野、土木・建築などの分野
 - 適切なとりまとめ役をお願いします。
 - 担当：高木
- どの分野にどの程度計算機が利用されているかを調べることにより、漏れている分野がわかるはず。
 - 各情報基盤センターの課題を見ればわかる。
 - JHPCNで検索かけてみる。
 - 担当：小野

– サイエンスロードマップの分量や書式の統一化

- たたき台作成
 - 担当：富田、杉田

• システム評価

– アプリケーションの選定方法

- まずは、昨年度ロードマップから抽出して始めるが、
- 詳細議論、次回持越しになった：
 - システム側との調整を含めて、**次回富田から報告**
- どのように使われるかも含めて。
- いつまでにどのぐらいの本数？ライセンス、公開の範囲を決める

– **ミニアプリで公開可能かどうかの確認**

- **担当：各分野取りまとめ役(次ページを参照してください)**

– AICSで簡単なもので一通りのプロセスを踏む。

- 評価方法のたたき台となり、一度ダメ出しする。
 - **担当：丸山**

– システム設計チームと共通化できるところは共通化して進める。

- 情報共有する。
- 隔週で会合を持つ。
 - **担当：丸山、松岡**

アプリケーション提供について確認事項

- 締め切り 以下についてこれで進めてよいか確認をもらいたい
 - 複数回受け付ける
 - 1回目受付締切は9月末日とする
 - 次回以降は年末や年度末を予定
- 提供内容
 - ソースコード
 - 入力や結果検証のためのデータ
 - ドキュメント
 - コンパイル方法
 - 実行方法
 - 背景となる支配方程式などの説明と離散化
 - 結果の検証方法
- ソースの扱い
 - フルアプリは他FSチームに対しても含めて原則非公開。他FSチームから提供のリクエストがあった場合は個別対応で提供元に問い合わせ
 - ミニアプリは原則プロジェクト終了後速やかにソースコードやドキュメント等含めて完全公開(2014年3月末以降)

- インフラの整備

- Webでのフォーラムを作るなど。

- 事務体制強化

- 担当： 富田、丸山